

当院は自衛官だけではなく、一般の皆様にもご利用いただけます。

筑紫路



発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目61番地
TEL 092-581-0431



新病院完成イメージ

新年のご挨拶



自衛隊福岡病院兼
春日駐屯地司令
陸将補 内藤智子

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます

旧年中はご厚情を賜り
厚く御礼申し上げます。
皆様にとって輝かしい
一年となりますよう、
祈念しております。

さて、私儀、令和七年十二月
十六日付で第二十八代 自衛隊
福岡病院長兼ねて春日駐屯地司
令を拝命いたしました。自衛隊
病院の中でも最も長い七十年の
歴史を誇る自衛隊福岡病院、か
つて整形外科医官として研鑽を
積んだ自衛隊福岡病院、春日駐
屯地で再び勤務できますことを
大変うれしく光栄に存じます。
全力で職務に邁進する所存、ご
指導ご鞭撻賜りますようお願い
申し上げます。

グローバルなパワーバランス
が大きく変化し、政治・経済・
軍事など多岐にわたって国家間
の競争が顕在化し、我が国が位
置するインド太平洋地域におい
て安全保障環境が深刻さを増す
可能性がある現下、自衛隊福岡

病院は「隊員の生命・身体を守
る衛生」としての使命を果たす
ために、「衛生機能の変革」を
さらに推進し、進化を遂げなけ
ればなりません。

また、中国による東シナ海周
辺等での力による現状変更の試
みが烈度を増す中において、国
家防衛戦略にも記述された「有
事において危険を顧みずに任務
を遂行する隊員の生命・身体を
守る衛生」であるために、自衛
隊福岡病院は、伝統を引き継ぎ
つつも、変化を恐れることなく、
前進を続けてまいります。

更には、新興・再興感染症へ
の対応やヘルス・セキュリティ
・ライイアンスへの寄与等、安
全保障において、ソフト・パワ
ーとしての衛生に期待される役
割は、これまで以上に増してい
くことでしょう。

いかなる局面においても、必
要とされる衛生機能を発揮させ
られる人材、医療現場で牽引力
となるべき人材の育成にも尽力
し、西部方面隊における衛生機
能強化を推進してまいります。

自衛隊福岡病院は、七十年の
永きにわたり当院を守り、育て
てくださった皆様への感謝を忘
れることなく、次の一步を踏み
出そうとしております。皆様に
とつて心穏やかな一年でありま
すようお願い、隊員やご家族の皆
様、地域の皆様に、そして国民
皆様に信頼される病院であり続
けるために職員一丸となつて取
り組んでまいりますことを誓つ
て、新年のご挨拶といたします。
本年もよろしくお願ひ申し上
げます。

新年のご挨拶



春陽会会長
牟田直

新年明けましておめでとうご
ざいます。春陽会の牟田でござ
います。皆さんは、新しい年を
どのように迎えられるのでしょ
うか。

昨年は、自衛隊福岡病院開院
七十周年を迎えました。今年
は、次なる八十周年に向けての第一
歩の年であります。このような
中、自衛隊福岡病院にとつて待
ち望んでいるのは、新病院の完
成です。現在工事は着々と進ん
でます。令和十一年三月開院
予定と聞いておりますが、開院
が待ち遠しいものです。

現在の自衛隊福岡病院は、私
が在籍した時と比べ、かなり速
いスピードで物事が進んでいる
ように思います。検討課題が山
積みで、この検討課題をひとつ
ひとつ検討し、少しずつではあ
っても確実に前に進めていく必
要があります。西部方面隊の基
幹病院として、有事に備えるの
はもとより、隊員の健康管理、
地域医療の貢献に内藤新院長を
核心として邁進していただきた
いと思います。

最後になりますが、今年が皆
様にとって良い年となることを
祈念いたしまして新年のご挨拶
とさせていただきます。



最先任上級曹長
准陸尉 生野忠文

新年あけましておめでとうご
ざいます。皆様におかれまして
は、健やかに新春をお迎えのこ
とと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、開院七十周年という
大きな節目を迎え盛大に記念行
事を執り行う事が出来ました。
これも病院を支えて下さった関
係者の皆様、地域の皆様のご理
解とご協力のおかげと厚く御礼
申し上げます。

また、各種訓練及び支援任務
を完遂し基本理念である「隊員
・国民に信頼される」病院を具
現化するために病院職員一人ひ
とりが目標に向かって行動し実
現出来たと思っております。

令和八年は、午年です。午年
は「勢いよく前へ進む年」と言
われます。どんな状況でも、互
いに声を掛け合い、仲間を思い
やる心を忘れずに、確実に前進
して行きますよう。

私自身も、皆さまの声に耳を
傾け、ともに汗をかきながら、
より働きやすく、信頼される病
院・駐屯地づくりに励む所存で
す。

本年も、伝統と誇りを胸に福
岡病院・春日駐屯地らしいチー
ムワーク「リーダーシップ・フ
ォロワーシップ」発揮して前進
して行きますよう。
皆様のご健康とご多幸を祈念
し新年のご挨拶とさせていただきます。

開院七十周年 記念行事

春日駐屯地（前司令 菊池陸将補）は、令和七年十月五日、春日駐屯地開設・自衛隊福岡病院開院七十周年記念行事を実施しました。

当院は昭和三十年に開院し、隊員及びご家族の診療や健康管理等に従事してきました。昭和四十四年には准看護学院の前身となる養成所を開設し衛生救護陸曹の養成を行い、平成十八年から保険医療機関の指定を受け一般患者の診療を開始するとともに、翌年から筑紫地区の救急輪番にも参画し地域医療にも貢献しています。

今年度は、新病院建替のための本体工事が開始され、駐屯地の使用に制限はありましたが、七十年の節目の年として、OBはもとより協力諸団体、地域の方々等をご招待し盛大に実施しました。また、併せて准看護学院五期学生受け入れ記念も実施しました。

駐屯地体育館での記念式典では、春日市長、筑紫医師会長をはじめ、協力諸団体、各駐屯地司令等のご臨席を賜る中、菊池将補は、「当院は、『九州・南西地域の基幹病院』であるという自覚に基づき、隊員はもとより国民のために、いかなる任務にも完遂できる能力を保持しなければならぬ。創立七十周年を機に、今我々には何が求めら

れ、何をなすべきなのかを一人一人が真剣に考え、当院及び当駐屯地を更に活性化し多くの方々から信頼されるように業務に邁進していこう。」と式辞を述べました。また、平素からご支援を賜る団体及び個人に対して感謝状贈呈を行い感謝の意を表しました。

式典に引き続き、招待者の皆様に院内をご覧いただきました。当院ご案内におけるオンライン診療の展示や救急外来施設の説明、七十周年記念動画や当院が民放から取材を受けた隊員食堂で出される「ブラツクジャツクカレー」のビデオ放映なども紹介しました。また、近隣住民の方々には、建替工事景況の病院本館屋上からの確認とともに、模型等による説明を行い、新病院建替後のイメージを把握いただき工事への理解をお願いいたしました。

午後からは、部外施設で歴代病院長会同を行い、駐屯地・病院の歩みから現在の状況についてご説明するとともに将来への展望・発展について、懇談を行いました。

その後の祝賀会は、盛大に実施され、多くの来賓紹介、乾杯会食と和やかな進行に、駐屯地和太鼓部による荘厳な太鼓演奏が本祝賀会に花を添えました。恵まれた天候の中、七十周年の歴史を振り返るとともに、今後の発展を駐屯地・職員一同、更なる進化を祈念いたしました。



祝賀会食（部長等紹介）



院内案内（診察室）



記念式典

業務継続訓練

自衛隊福岡病院は、令和七年十一月二十日及び二十九日、令和七年度業務継続訓練を実施しました。

本訓練は、北部九州警固断層による震度六強、マグニチュード七・二規模の地震発生により、病院本館が半壊の被害、かつ病院群救急輪番制当番日の状況を想定とし、診療業務の継続要領等を含めた基本的事項を考察して実動訓練を行い、その成果・教訓事項を当該対処計画に反映し計画の深化を図ることを目的とするものです。

十一月二十日の机上演習（以下、「TTX」という。）では、当該計画の修正案について認識の共有を図るとともに、臨時に開設するエアドームの内部配置、患者動線等、未検討事項に関する討議を実施しました。活発な議論のもと、各部課等の任務の確認、連携要領等を認識共有し、業務継続訓練（実動訓練）実施の資としました。

十一月二十九日の実動訓練では、TTXを基に、院内の業務継続体制の実効性を多面的に検証し、多くの成果を得ることができました。各部課等を役割等を実動で確認することで、各種業務遂行上の課題や運用上の問題が具体的に明らかになりました。またエアドームを展開・運用したことにより、設営手順、

必要資材及び維持管理の要点を習得するとともに、災害時における臨時診療区画の検証、患者動線の確認、季節変化に伴う診療・収容環境等への管理基盤上の課題等を把握することでき、問題点の早期解決策の必要性を認識しました。

本訓練の知見及び訓練成果を著実に計画及び今後の業務に反映し、病院本館の倒壊やライフラインの寸断、当院職員の被災といった極めて厳しい状況下においても、業務継続能力を発揮し得る態勢の確立を図り、より実効性を高めるべく努めてまいります。



健康福祉フェア

自衛隊福岡病院は、令和七年十月五日にイオンモール筑紫野で実施された済生会二日市病院が主催する健康福祉フェア（防災・医療）に参加しました。

本事業は、地域住民の方々の災害に対する意識を高めるとともに、自衛隊及び自衛隊福岡病院に対する理解の促進を目的とするものです。

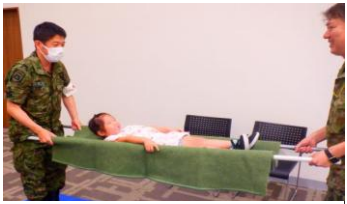
当院は、応急処置体験を担当し、AEDの使用法、簡易担架作成及び搬送体験、新聞紙やサララップの芯などの身近な材料を活用した骨折時の簡易的な固定要領、出血した際の各種止血方法の教育、陸上自衛隊様様の医療救急バツクの展示及び説明を実施しました。

約三百二十名の方が来場し、特に子供や家族連れが多く、AEDの使用要領の展示・説明は子供達に人気があり約八十名が体験参加されました。

地域の方々に災害時の備えや応急処置について伝えるのみならず、来場者から「自衛隊の活動を知ることができた。」「自衛隊がいて安心感がある。」との声をいただき、自衛隊広報に寄与する良い機会となりました。



AED使用法の教育



簡易担架による患者搬送体験

駐屯地大運動会

令和七年十一月十五日、令和七年度春日駐屯地大運動会を開催しました。

本運動会は、平成二十七年度から開催し、運動を通じて駐屯地各職員及び家族等との交流を深めるとともに、参加者それぞれの必要な基礎体力の向上を図ることを目指しています。隊員・家族・春陽会から九十七名、二十家族が参加しました。

病院長、副院長、看護部長を長とする三チームに分かれ、〇×クイズ・大玉転がし・デカパン競争・大縄跳び・玉入れ等の計十二種目で争い、「病院長チーム」が優勝。全員が怪我な楽しく充実した一日を過ごしました。参加者からは「凄く楽しかった。」「また来年も参加したい。」「他部署の方々との交流ができる良い機会だった。」等々の声を頂きました。令和八年度以降も継続して開催していきたいと思えます。



准看護学院地行進訓練

准看護学院は、令和七年十月十日、宝満・三郡山系において第一学年（第五十期生）三十五名の第二回山地行進訓練を実施しました。

本訓練は、福岡准看護学院の伝統的訓練であり、陸曹として必要な指揮能力、衛生救護陸曹としての救護能力、患者後送能力向上及び体力・気力・団結強化を目的としています。

第一回背振山行進訓練から約三ヶ月経過し体力・気力を更に充実させた学生は意気揚々と訓練に臨みました。訓練開始にあたっては、病院長の視察・激励を受けて士気を高揚させ前進を開始。宝満山山頂までは、険しい斜面と延々と続く不規則な階段に苦慮しながらも、同期で助け合いながら黙々と行進しました。また、患者発生の状況付与に伴う担架搬送においては患者の安全を第一に、常に患者に寄り添い励ましながら行進を継続し、全行程を一人の脱落者も出さずことなく踏破し、本訓練の目的を達成しました。

駐屯地帰隊時は、学院長以下職員及び第二学生（第四十九期生）の出迎えを受けて溼潤とした表情で訓練を終了しました。この訓練を通じ、同期間の団結を更に強化するとともに、いかなる困難にも立ち向かえる衛生救護陸曹としての資質を向上させることができました。



航空機搭載・卸下訓練

准看護学院は、令和七年十一月十八日、第四十九期生の「航空機搭載・卸下訓練」を実施しました。

本訓練は第四飛行隊の支援を受け三年振りに実施されました。当初、エンジン停止状態において担架装着要領等を段階的に練成しました。その後、病院長視察を受ける中、UH-1のダウンウオツシユが吹き荒れる状況下における患者の搭載・卸下及び機内での患者観察要領を練成しました。

多くの学生が初めての航空機搭載訓練でしたが、本訓練を通じて部隊配属後、衛生救護陸曹として災害派遣現場や大規模演習における航空機搭載・卸下に自信を得たものと思えます。卒業を間近に控えた第四十九期生の益々の活躍を祈念します。



准看護学院戴帽式

准看護学院は、令和七年十一月七日、第五十期准看護学院戴帽式を挙行了しました。

病院長立会（病院職員参列）の下、方面医務官、学生研修受入先の特別養護老人ホーム悠生園園長及び看護部長のご臨席を賜り厳粛な雰囲気の中で戴帽式が実施されました。学院長は「周囲の方々に信頼され必要とされる准看護師である衛生救護陸曹を目指して力強く歩みを進めてほしい」と祝辞を述べました。

第五十期生は代表学生の「蓮の花のような清らかな心を持ち、優しさと強い信念で患者さんのよき理解者となる准看護師を目指し、向上心と責任感を持ち、知識と技術、感性を磨き続け、ここに集う仲間と支えあい看護の本質を考えながら看護の道を歩んでいきます。」と全員で「誓いの詞」宣言しました。戴帽式終了後は看護実習等が本格化します。新たな決意を胸に秘めた第五十期生の、更なる飛躍に期待します。

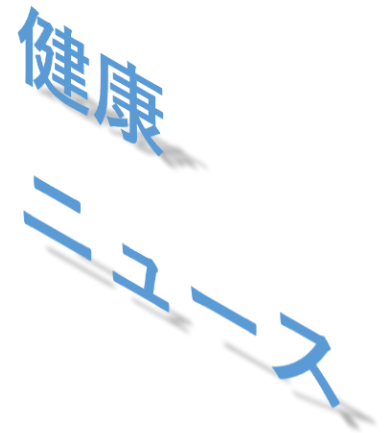


当院は、どなたでも（防衛省関係者以外でも）ご利用いただけます。
 また、筑紫地区の救急輪番も担当しています。
 受付時間は、午前8時15分～午前11時30分 ※午後は予約のみとなります。

～診療科～

内科／小児科／精神科／外科／整形外科／皮膚科／
 耳鼻咽喉科／泌尿器科／歯科／禁煙外来

※診療科によって診療日が決まっております。ホームページの外来案内を参考または
 医事課までお問い合わせ下さい TEL 092-581-0431



当院外科では、下肢静脈瘤に
 対する静脈瘤外来を開設し、既
 に複数の静脈瘤でお悩みの方か
 ら相談をいただいております。
 下肢静脈瘤は十人に一人が持
 つとされ、足の表面の血管がぼ
 こぼことしていて、足がよくむ
 くむといった特徴があります。
 放置すると足のだるさやむく
 み、膝の痛みや筋痙攣（こむら
 返り）に繋がります。特にご家
 族に静脈瘤の方がいらつしやる
 場合は、遺伝することもありま
 す。静脈瘤かどうか分からなく
 ても、問診をし、お困りの症状
 がある場合はエコーやMRIと
 いった検査で原因を検索するこ
 とが可能で、どうぞお気軽に
 なくお越しください。
 もし静脈瘤と分かった場合、
 当院ではレーザー治療を行って
 おります。数百人以上の方に
 レーザーを実施している自衛隊
 中央病院の血管外科医師の支援
 を受け実施しますので、まずは
 説明だけでも聞きにいらして
 ください。
 静脈瘤外来は毎週水曜・木曜
 の午前中に実施しております。
 お悩みの方は、ぜひ一度ご来院
 ください。



- ・ 約10人に1人に静脈瘤があります
- ・ 長時間の立ち仕事などがリスク
- ・ レーザー治療が選択肢です
- ・ 局所麻酔での手術です
- ・ 合併症の発生率は約3%です



企画室
 十二月二十四日
 三佐 高崎美紀



総務部
 十二月十七日
 二尉 武田武士



診療技術部
 十二月十七日
 二佐 和才新一



総務部
 十二月十二日
 准尉 久松克義



看護部
 十二月八日
 三佐 鈴木智子



看護部
 十一月二十八日
 三佐 木曾博子



総務部
 十一月二十二日
 一尉 野田正剛

◇定年退官◇



令和7年4月



令和7年11月

建替工事に関するお知らせ
 令和七年四月より本格的な工
 事を開始しました。現在は掘削
 工事を実施中であり、工事で発
 生する土を大型車両で搬出して
 います。近隣住民の皆様、幹線
 道路周辺の地域住民の皆様にご
 迷惑をお掛けしておりますが、
 今後ともご理解、ご協力賜りま
 ようお願い申し上げます。

8



診療技術部
 十二月三十一日
 三尉 濱 良道



看護部
 十二月二十八日
 三佐 半澤由香



総務部
 十二月二十六日
 曹長 時村正樹